

全国アマモサミット 2008 終了報告（再修正版）

2008（平成 20）年 12 月 18 日

全国アマモサミット 2008 実行委員会

委員長 林しん治

連絡先：〒220-0023 横浜市西区平沼 2-4-22 ジュネスササキ 202 号

金沢八景-東京湾アマモ場再生会議 事務局 気付

E-mail: hayashi.shinji@gmail.com

問い合わせ先：〒231-8588 横浜市中区日本大通り 1

神奈川県環境農水部水産課 内

「全国アマモサミット 2008」実行委員会（担当：秋元清治）

電話：045-210-4542（直通）/Fax：045-210-8853

E-mail: amamo-info@www.meic.go.jp

URL: <http://www.meic.go.jp/amamo2008>

関係各位

第一回全国アマモサミット（全国アマモサミット 2008）は皆様のご協力を得て、無事終了いたしました。概略をご報告いたしますので、ご査収下さい。

今回、いろいろな側面から全国アマモサミット 2008 の開催・実施にご協力下さった、個人、組織、団体の皆様に深く感謝します。

また、今後とも、日本の海洋沿岸域、流域圏の自然再生と市民との共生に関して、ご協力・ご支援をお願い申し上げます。

1. 集会の名称 全国アマモサミット 2008
2. 主催 全国アマモサミット 2008 実行委員会（構成：金沢八景-東京湾アマモ場再生会議、国土技術政策総合研究所、神奈川県、横浜市、川崎市、東京湾岸自治体環境保全会議、(公)横浜市立大学
3. 後援：環境省、国土交通省港湾局、八都県市首脳会議環境問題対策委員会水質改善専門部会、東京湾再生推進会議、東京湾の環境をよくするために行動する会
4. 開催期日 2008（平成 20）年 12 月 5-7 日
5. 開催場所 12 月 5-6 日 はまぎんホールヴィアマーレ
12 月 7 日 現地見学会（海の公園、（独）港湾空港技術研究所、東扇島東公園かわさきの浜）

6. 開催形態 全体の構成を実行委員会に加わる団体・組織の中で分担した。

(会期：3日間) 会場 (はまぎんホールヴィアマール)

| 5日 | 項目 | 担当 | 内容 |
|----|------------------------|------------|------------------------------------|
| 午前 | 第9回東京湾シンポジウム | 国総研 | 研究者による研究発表、特別講演、パネル討論。 |
| 午後 | アマモ場再生に関する全国主要活動成果発表 | 再生会議 | 7 演題 (第6回横浜海の森づくりフォーラム) |
| 午後 | 展示で見る海辺の自然再生 (企画展+公募展) | 国総研 + 再生会議 | 企画展：20枚程度のポスター展示 公募展：21件のポスター展示 |
| 夕刻 | 交流会 | 実行委員会 | |

| 6日 | 項目 | 担当 | 内容 |
|----|------------------------|------------|----------------------------|
| 午前 | 世代を超えた連携による自然再生活動 | 神奈川県 | 子ども達・学生達による自然再生の活動発表 6件+総評 |
| 午後 | 展示で見る海辺の自然再生 (企画展+公募展) | 国総研 + 再生会議 | 前日の継続 |
| 午後 | パネル討論 | 神奈川県 | アマモ場再生に向けた地域連携・世代連携を探る |

| 7日 | 項目 | 担当 | 内容 |
|----|-------|------|--------------------------------|
| 午前 | 現地見学会 | 神奈川県 | 海の公園、(独)港湾空港技術研究所、東扇島東公園かわさきの浜 |

7. 経費分担

基本的に、担当セッションについての経費を担当する団体・組織が分担した。また、会場費については国総研が、印刷費については神奈川県水産課が、軽食についてはアマモ場再生会議が分担した。会計処理については、それぞれの組織内で行った。したがって、実行委員会本体としての会計は行っていない。

8. 参加人数等

総参加者数 (推定)：約 470 名。事前登録を呼びかけたが、当日参加も可とした。下記の事前登録者数に当日参加者、出演者・報告者としての参加者を加えた推定値である。

参考：事前登録の内訳。

| | 午前 | 午後 |
|-------|---------|------|
| 12月5日 | 176名 | 181名 |
| 12月6日 | 131名 | 127名 |
| 12月7日 | 43名 | |
| 全体 | 262名（※） | |

※ 優先枠（予備登録者、実行委員会関係者、出演・報告者）63名、
一般枠 199名。

9. 会の成果・課題・予定

全国アマモサミット 2008 の内容の概略は会場で配布した「要旨集」印刷版を参照していただきたい。また、編集終了後に修正・追加を加えたものは、「要旨集電子版」としてウェブ上に掲載してある。要旨集電子版は、印刷版と異なりカラー版であるため、より分かり易く編集してある。

第二日午後の「パネル討論」の中でアマモ場再生に関する「横浜宣言」をとりまとめた。「横浜宣言」はアマモ場再生を中心として沿岸域の自然再生に対する参会した皆さんの意志と熱意を表現しているものであることから、今後の関連した活動に大いに力になるものであろうと考えられる。いろいろな局面での活用をお願いしたい。

次期開催地は、中海（鳥取および島根）が引きうけてくださった。全国アマモサミットが継続的に開催されることの道筋ができたことは、大変ありがたいことと考えられる。

国総研がとりまとめた企画展示「場の理解のための取組」については、会場で集められたコメント等を組み込んで、今年度中に冊子が編集される予定である。また、今回の全国アマモサミット 2008 の内容は、神奈川新聞の特集として紙面に構成し、広く県民・市民の皆さんの目に触れる形になる予定である。

（以上）

添付書類：「横浜宣言」（確定版）

全国アマモサミット2008 横浜宣言

アマモは、砂質や砂泥質の浅海域に群落を形成する海草であり、魚介類に生育と繁殖の場を提供してきました。しかしながらここ半世紀以上にわたる沿岸域の開発がアマモ場の減少をもたらし、豊かな海の環境が破壊されつつあります。

四方を海に囲まれたわが国にとって、浅海域の環境、とりわけアマモ場を再生・保全することは重要であり、それは私達の責務でもあります。

そのような状況下で、2006年には、「アマモサミット・プレワークショップ」を横浜の地において開催し、全国でアマモ場再生に取り組んでいる仲間たちと共に、全国アマモサミット開催の必要性を確認し合いました。

そして、2008年の12月、ここに、多くの関係者の理解と協力のもと、全国アマモサミットを開催することができました。

本サミットでは、海辺の自然再生に向けた様々な取り組み、全国各地で活動しているアマモ場再生活動、そして、自然再生に熱心に取り組んでいる子供たちや生徒たちの活動を知ることができました。あわせて、アマモ場再生を切りにした海辺の再生・保全に取り組んでいる方々からの熱いメッセージとその実践内容について報告いただき、情報を共有することができました。

さらにまた、パネル討論において、「地域連携」「世代連携」の重要性に気づき、議論を深めることができました。

「海のゆりかご」と呼ばれ、海辺の環境をよりよくするアマモ場を再生するために、みんなで知恵を出し、行動を開始しなければなりません。「みんなの力でアマモ場を再生し、子供たちに残そう豊かな海」を合言葉に、私達は次のような行動に取り組むことを宣言します。

1. 一人ではできないことも、みんなで取り組むことで、大きな力となり目標を達成できます。一人でも多くの人の参加によるアマモ場再生活動となるよう、できることから始められるよう、取り組み方法を工夫します。
2. 各地のアマモ場再生活動は地域性に富んでいます。「まちおこし」としての役割にも着目し、その地域の特性から生まれた取り組みの様式を尊重しながら、小さな成功の積み重ねや、失敗例等の情報の共有化とその活用に努めます。
3. 一つの流域には、山から海まで、森・川・海・里の再生に頑張っている多くの仲間たちがおります。企業・産業の視点からも相乗効果を高めるため、この仲間どうしで情報共有を進めます。
4. みんなで想いを共有できる目標の設定、より良い人間関係の構築、科学・技術に根ざした行動のために、時間をかけ、魅力あるリーダーシップの醸成、専門家による支援を促進します。
5. 次世代を生きる子供たちが、命の大切さに気づき、夢を持って、いつでも・いつまでも楽しみ、そして学びながら継続して取り組める、海や川の環境保全に向けた活動のシステム（プログラム）の構築を目指します。

本サミットを通じて、確認し合った熱い思いと絆は、次のステップに踏み出す原動力になるものと思います。本宣言がそうした力を引き出す糧となることを切に願っています。

平成20年12月6日

全国アマモサミット2008 参加者一同

全国アマモサミット2008 実行委員会

全国アマモサミット2008 横浜宣言

アマモは、砂質や砂泥質の浅海域に群落を形成する海草であり、魚介類に生育と繁殖の場を提供してきました。しかしながらここ半世紀以上にわたる沿岸域の開発がアマモ場の減少をもたらし、豊かな海の環境が破壊されつつあります。

四方を海に囲まれたわが国にとって、浅海域の環境、とりわけアマモ場を再生・保全することは重要であり、それは私達の責務でもあります。

そのような状況下で、2006年には、「アマモサミット・プレワークショップ」を横浜の地において開催し、全国でアマモ場再生に取り組んでいる仲間たちと共に、全国アマモサミット開催の必要性を確認しました。

そして、2008年の12月、ここに、多くの関係者の理解と協力のもと、全国アマモサミットを開催することができました。

本サミットでは、海辺の自然再生に向けた様々な取り組み、全国各地で活動しているアマモ場再生活動、そして、自然再生に熱心に取り組んでいる子供たちや生徒たちの活動を知ることができました。あわせて、アマモ場再生を切りにした海辺の再生・保全に取り組んでいる方々からの熱いメッセージとその実践内容について報告いただき、情報を共有することができました。

さらにまた、パネル討論において、「地域連携」「世代連携」の重要性に気づき、議論を深めることができました。

「海のゆりかご」と呼ばれ、海辺の環境をよりよくするアマモ場を再生するために、みんなで知恵を出し、行動を開始しなければなりません。「みんなの力でアマモ場を再生し、子供たちに残そう豊かな海」を合言葉に、私達は次のような行動に取り組むことを宣言します。

1. 一人ではできないことも、みんなで取り組むことで、大きな力となり目標を達成できます。一人でも多くの人の参加によるアマモ場再生活動となるよう、できることから始められるよう、取り組み方法を工夫します。
2. 各地のアマモ場再生活動は地域性に富んでいます。「まちおこし」としての役割にも着目し、その地域の特性から生まれた取り組みの様式を尊重しながら、小さな成功の積み重ねや、失敗例等の情報の共有化とその活用に努めます。
3. 一つの流域には、山から海まで、森・川・海・里の再生に頑張っている多くの仲間たちがおります。企業・産業の視点からも相乗効果を高めるため、この仲間どうしで情報共有を進めます。
4. みんなで想いを共有できる目標の設定、より良い人間関係の構築、科学・技術に根ざした行動のために、時間をかけ、魅力あるリーダーシップの醸成、専門家による支援を促進します。
5. 次世代を生きる子供たちが、命の大切さに気づき、夢を持って、いつでも・いつまでも楽しみ、そして学びながら継続して取り組める、海や川の環境保全に向けた活動のシステム（プログラム）の構築を目指します。

本サミットを通じて、確認し合った熱い思いと絆は、次のステップに踏み出す原動力になるものと思います。本宣言がそうした力を引き出す糧となることを切に願っています。

平成20年12月6日

全国アマモサミット2008 参加者一同

全国アマモサミット2008 実行委員会